

### 3年生国語科学習指導案

日時：平成19年2月8日(木)

場所：3年生教室

学級：3年生(男子18名、女子11

名)

授業者：水野 暁子

1 単元名 様子や気持ちをそうぞうしながら読もう 「モチモチの木」

2 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、民話の語り口を生かした童話で、日ごろ臆病な主人公豆太が大好きなじさまのために、勇気を奮い起こし、普段では考えられないことをやり遂げるという物語である。

本文は五つのまとまりから構成されている。語り手の視点から述べられる内容もじさまの行為や言葉も豆太に対する深い愛情に満ち、人間の弱さを否定せず、「本当の優しさ」とはどんなことなのかを感じさせてくれる作品である。この教材文を読んでいく中で、豆太の弱さにも共感させながら人間の可能性、人間の生き方にも目をむけさせたいと考えている。そのため、人物の様子や行動を表す言葉、語り手の語りなどの叙述を基にしながら想像を広げて登場人物の心情を読むことを大切にしたい。

児童は、これまで「きつつきの商売」「三年とうげ」「ちいちゃんのかげおくり」で物語文の学習をしてきた。「きつつきの商売」では、描かれている情景について叙述をもとに想像しながら読み、その読みの内容を音読に生かすという学習をした。「三年とうげ」では、登場人物への感想を交流しあい、物語のおもしろさや、それぞれの感じ方のちがいを確かめ、本の帯をつくる学習をした。

また、「ちいちゃんのかげおくり」は、叙述に即して読み、言葉と言葉をつないで場面の様子や人物の心情を想像する学習のきっかけとして位置づけた。

これらの学習から4年生につながる「叙述に即して読もうとする姿勢」「言葉と言葉をつないで想像する姿勢」は身につけてきた。しかし、多くの児童は、大まかな叙述を根拠にする傾向が強く、自分が文章や言葉から感じることに、文章や言葉を根拠にすることを混同しているため、言葉に着目し、その言葉を根拠にして読んだり想像したりする活動を位置づけることが必要であると感じる。

そこで、本単元は「読みの根拠とした叙述を明確にし、言葉と言葉をつないで人物の様子や心情を想像する力」をつける授業を仕組みたいと考えている。

(2) 児童の実態

つきたい力からみた児童の実態は以下のようである。

A 根拠となる言葉や文をはっきり挙げ、  
それらをつないで読んだことを伝えることができる。 . . . 6

人

B 根拠となる言葉や文を挙げながら読むことができる。 . . . . .

少しずつ力をつけてきているが、子どもたちは様々な場面で根拠を問われると自分の考えを伝えられなくなる傾向がある。そのため、国語の授業を仕組む上で、根拠となる言葉や文をはっきり挙げながら自分の考えや想像したことを伝える力をつけていくことを大切にすることが必要である。

まず、文章の中のできるだけ短い表現（言葉）に着目し、それを根拠として読んでいくことをしたい。そして、教材文中の二つ以上の言葉をつないで読み、人物の様子や心情を想像する場を毎時間位置づけ、言葉と言葉をつないで読んでいく力をつけていく授業にしたいと考えている。

また、子どもたちの中には、「書く力に弱さがあり、自分の考えを伝えることが難しい児童」「書き言葉と話し言葉が混乱している児童」「表記上のミスが目立つ児童」「主語・述語などがはっきりせず、文意がわかりにくくなる児童」があり、を合わせると7名になる。このような「書く力」の弱さは、なかなか克服できず、課題の一つになっている。そのため、書く内容をはっきりさせ、楽しみながら「書く」ことに繰り返し取り組ませることをしたい。

単元の出口の、「豆太の紹介本を書く」活動は、楽しみながら書き、自分の表記を見直す機会になると考えている。

### 3 研究テーマにかかわって

研究主題

仲間と共に学び合う子の育成

～考え、学び合い、高まる授業をめざして～

(1) 研究内容1 「自分の考えをもつことができるようにするための指導のあり方」にかかわって

モチモチの木にへんしんして、豆太のことがよくわかるように豆太の紹介本を書こう。

と言う単元を貫く課題を設定し、2次の教材文の読み取り活動に必然性をもたせる。

また、貫く課題の五つの言語意識は次のようである。

相手 : 自分の家の人

目的 : 読み取ってきた「豆太の様子や気持ち」をわかってもらう。

場面 : 紹介本

方法 : 根拠にする言葉をはっきりさせ、言葉と言葉をつないで豆太の様子や心情を想像

する

評価 : 紹介本の読み聞かせを聞いた感想メッセージをもらう

(2) 研究内容2 「伝え合う場の設定のあり方」にかかわって

一人一人の考えを交流する中で、互いの読み方のよさを確認し、学び合うことのできる1時間にしたい。そのため、「会話に着目した読み方」「行動描写に着目した読み方」「情景描写に着目した読み方」など、それぞれの読み方のよさを価値づけることによって、物語文の読み方を学べるようにする。また、話し合いを焦点化するための課題を提示し、考えを深めていく場面を設定する。

(3) 研究内容3 「1時間の学習の評価の場のあり方」にかかわって

本単元でつけた力は、「読みの根拠とした叙述を明確にし、言葉と言葉をつないで人物の様子や心情を想像する力」である。まとめの場面では、言葉や文を根拠に読んだことが位置付くような「まとめるための型」を提示する。